

1 小中一貫教育の推進

牧之原市の「望ましい教育環境のあり方」に関する方針に沿い、令和元・2年度 牧之原市教育委員会の指定を受け、学びと育ちを育む小中連携事業に取り組みました。

小学校の教諭が中学校での授業を参観し、子どもの学びがどのように発展していくのかを知ることができました。反対に、中学校の教諭にとっては、どのように学んできたのかを知り、子どもの学びの経験を生かした指導法を工夫していくことで子どもたちの学びが深まることを学びました。また、小学校時の教諭が、中学校での道徳を行うことで、子どもたちのこころの成長を体感することができました。



つまり、小学校、中学校がそれぞれで教育を推進するよりも、小学校中学校が、より連携、協働



し、義務教育9年間で子どもたちを育てていくことが、子どもたちの「確かな学力」「豊かな心」「健やかな体」など、「知・徳・体」の調和のとれた「生きる力」を育み、今日の変化の激しい社会を主体的にたくましく生き抜く人間力が育まれると考え、今後も小中一貫教育を推進します。

2 小中一貫教育推進の柱

- (1) 9年間で育みたい小中共通の教育目標（15歳段階で目指す子ども像）を設定し、学校・家庭・地域が教育目標を共有し、コミュニティ・スクールを基盤とした小中一貫教育を推進します。
- (2) 9年間の系統性・体系性に配慮がなされる学習指導や行事等の教育課程の編成を追求し、連続性のある教育活動を通して、知・徳・体の調和のとれた「生きる力」を育みます。
- (3) 9年間を見通し、一貫した特別支援教育が推進できるよう努めます。
- (4) 小・中学校の教科領域を横断し、起郷家教育（牧之原市版キャリア教育）を通して、ふるさとを愛する心を育み、牧之原の未来を考え、そのよさを発信できる子どもの育成を図ります。

3 小中一貫教育推進の柱をささえる取組

- (1) 小・中学校教員の相互乗り入れ授業の実施
小学校の教員と中学校の教員がお互いに行き来しながら、それぞれの立場を活かしたきめ細かい学習指導を行います。
- (2) 小・中学校教職員の協働による教科等合同研修の実施
市内教員が作成した教科カリキュラム等を活用し、小中学校合同で協働による教科・専門領域の研修を行い、9年間のつながりを活かした授業づくり等に取り組みます。
- (3) 小学校高学年への教科担任制の導入
小学校高学年において、学級担任制を基盤とした教科担任制を導入し、中学校における教科担任制へのなめらかな接続を図ります。
- (4) 小中一貫教育を支えるPTA 組織・活動の再構築
小中PTA 活動の連携の強化を図るため、小中それぞれのPTA 組織・活動を見直します。

4 小中一貫教育推進構想図

牧之原小



小中一貫教育を目指した牧之原小中教育目標
— 協力平 夢ある未来を切り拓く —

牧之原中



誠 主体的に
取り組む子

愛 優しい心
に持つ子

勇 勇気を出して
挑戦する子

重点目標 **みんな幸せ**～勇気と優しさがあふれる学校～

誠 をもって貫き

愛 をもって接し

勇 をもって行う

重点目標 **輝く私 磨き合う仲間**

子どもたちが楽しい
と思える授業

学力向上・学びの連続性 対話を通して、子どもたちがつながる授業をします

- 学習のルール（発表、話し合い、聴き方の約束）
- 校内研修（めざす授業像（こども観）の共有、個別最適な学びと協働的な学び）
- 合同研修会 ○普段授業の参観（参観しながら学習支援）
- 教科担任制（乗り入れ授業、高学年の教科担任制、学年内教科担任、小中教諭による協働授業）
- 6年生の中学校体験授業（年2回実施）
- 特別支援学級の交流（農園活動）
- 中学生による小学生への読み聞かせ



子どもたちの持っているよさ
（勇気と優しさ、誠実）が輝く

育ちをつなぐ 子供たちの夢を育み、生き方を支援するキャリア教育を推進します

- ◎小中共有の生活の約束
⇒生徒指導部・児童会・生徒会による校則の見直し
- ◎9年間を通して、子どもたちに主体的に考える力を身につけさせます（子どもの思い・願いを中心に考えた教育活動）
⇒・児童会、生徒会活動（自治活動）・いじめ防止宣言（小中共有）・避難訓練（引き渡し）
- ◎郷土を愛する心を育みます
⇒「牧之原のひと・もの・こと」を学ぶ、
9年間を見通したキャリア教育「起郷家」プログラムの実施
「小中生活交流（グリーンベルト）」



身につけたい
資質・能力1

創り出す力
の育成

自分の思いや考えを表現できる学校にします。自信を持って表現できるように子供ファーストで考えます。

- ・自分のやりたいことが言える。
- ・話をわかろうとして聴く

- ・自らやるべきことを見つけ積極的に取り組む
- ・自分の特性に気づき、自分らしさを発揮する。

- ・自分の考えを相手がわかるように伝える。
- ・目標達成に向けて粘り強く取り組む。

身につけたい
資質・能力2

コミュニケーション
の伸長

「互いに高めあう人間関係（協力平の精神）」を育成するために、グループ・班・学級・学年活動、縦割り活動、小中合同活動を充実させます。

- ・ありがとう、ごめんなさいを言う。
- ・係活動に取り組むその大切さがわかる。

- ・相手の意見を聴き、協力して物事に取り組む。
- ・思いやりの気持ちを持ち他者の立場で考え、行動する。

- ・自分と周囲の人や物事との関係性を理解し、行動を選択する。
- ・仲間とより良い解決策を検討しながら、課題解決に取り組む。

<牧之原小中コミュニティ・スクール>

学校運営協議会



- ・小中共通の学校運営協議会委員で構成
- ・目指す子ども像（教育方針）の承認
- ・学校、家庭、地域がそれぞれどんな連携や協力するのかなど意見を出し合い、課題の対応や事業を計画します。



学校支援地域本部

学習支援

環境ボランティア

教育後援会

読み聞かせ
ボランティア

クラブ活動

企業

見守りボランティア

農業体験
苺、自然薯
野菜づくり等

